

愛宕 東北×0.265

愛宕神社は全国に894社（神社本庁平成祭アータ）中でも福島県は106社と最も多く、青森県6社、岩手県32社、宮城県33社、秋田県31社、山形県29社と、東北地方だけでも237社にのぼります。東北地方の愛宕神社ご鎮座率は、約3割の二割六分五厘。〇・二六五なのです。この理由のひとつは、戦国大名の伊達政宗と考えられます。

政宗は、現在の山形県米沢市に本拠を構えていたころより、愛宕信仰に篤く、その神威で勢力圏を出羽国・陸奥国に拡大、東北の雄へと成長しました。やがて独眼竜と名高い伊達政宗は、大阪夏の陣へと出陣を命じられます。しかし軍功が上げられませんでした。そこで家臣の片倉小十郎重綱（のちの重長）を京都愛宕山の白雲寺へ遣わし、戦勝祈願をさせました。するとみごとに軍功を上げることができました。

戦後政宗は、元和元（一六一五）年5月24日、戦勝成就の御礼の代参を片倉重綱に命じます。このとき緋色の僧衣と袈裟をまとい、地藏の持物である錫杖を構えた烏天狗（太郎坊天狗）が、愛宕の神の使いとされる疾走するイノシシにまたがった図の絵馬を奉納しました。

この絵馬は、その後の火災で焼失しましたが、寛文8（一六六八）年、3代目片倉景長によって同様の図像の絵馬が再奉納されました。この絵馬が現在京都の愛宕神社に掲げられています。

寛政12（一八〇〇）年3月晦日、絵馬は修復のため愛宕山から京都の藩屋敷に下ろされます。すると同年4月15日、愛宕山で坊舎が消失する大火災が発生しました。しかし、絵馬は藩屋敷にあつたため火災を免れました。このことで巷では、火除けの片倉絵馬として崇められたようです。



片倉小十郎奉納絵馬の下絵
京都愛宕神社本殿に掲げられた初代絵馬の下絵（「宮城県図書館所蔵」）



現在も京都愛宕神社の本殿に掲げられている再奉納された絵馬
寛文8年(1668) 代目片倉景長 [2m×4m]



未曾有の困難に
打ち勝つシンボルとして

京都愛宕研究会 東日本大震災復興支援プロジェクト 募金へのご協力をお願い

2015年、伊達政宗の命で家臣片倉小十郎重綱が、戦勝祈願成就の絵馬を元和(1615)年に京都愛宕神社に奉納して400年になります。この400年という長い年月の間に絵馬は、一旦火災で焼失してしまいましたが、片倉家によって再奉納され、その後、経年のために褪色した部分の補筆や修復が施されて、ここ京都の愛宕神社本殿に掲げられています。ただ残念ながら現在その図像は、はっきりと見えない状況です。

とはいえ、この絵馬は、高湿、風雪という劣悪な自然環境のもと、片倉家の皆さんをはじめ、時の為政者や戦国武将、愛宕さんの崇敬者の皆さんの手によって現在まで守られてきた、東北と京都を結ぶ絆を今に示す重要な文化財です。

愛宕大権現が戦勝祈願・結願の神であったことは、この絵馬が歴史的・文化的に示めています。今ここに未曾有の困難に打ち勝つシンボルとして、東北の方々に対し、この絵馬を復元して届ける、被災者の皆様の心の支えと被災地の復興と再生に向けてのプロジェクトを立ち上げ、こころの再生に向けた取り組みを継続していきます。

■募金目標額

1,000万円

ホームページ <http://kyotoatago.org/>
で募金状況を公開します。

■振込先

[郵便振替口座] 00950-3-113210

[加入者名] 京都愛宕研究会

振替用紙の通信欄へ「激励メッセージ」を添えてください。

■お問い合わせ

募金の詳細やお振込みなどにつきましては、下記までお気軽にご連絡ください。

（京都愛宕研究会 事務局） 621-0847 亀岡市南つつじヶ丘桜台1丁目5番19号
事務局長 鵜飼均 電話；090-2353-4219 / MAIL；ukai2004@yahoo.co.jp